

令和元年度 学校関係者評価委員会(令和2年2月8日)

学校アンケート結果による分析・改善に向けての提言

【学校関係者評価委員会】 ◎委員長

- ◎稻田 正克：地域、元目黒区立小学校長
菱川 晃夫：学識経験者、国士館大学教授
二川 早苗：元保護者、地域、日本家庭教育学会副理事長
元世田谷区立小学校 P T A 連合協議会長
松原 信行：元保護者、元P T A会長、同窓会長
国士館中学・高等学校保護者役員
石綿 陽子：元保護者、元P T A役員
吉良 雅彦 保護者、元P T A会長
毛受 直子：新B O P事務局長

本委員会は学校関係者評価の結果に基づき、以下の点で桜丘小学校へ提言します。

<学校教育目標についての分析・提言>

- 1 「豊かな心をもった子」<德育> 思いやりのある優しい子ども に関連した項目
【あいさつ・人権】
- 2 「豊かな心をもった子」<德育> 思いやりのある優しい子ども に関連した項目
【生活指導面】
- 3 「よく考える子」<知育> ものごとをよく考え、向上しようとする子ども に関連した項目
【学習指導】
- 4 「健康な子」<体育> 体を丈夫にし、明るい心をもつ子ども に関連した項目

<各項目についての分析・提言>

- 5 学校運営について
- 6 教職員について
- 7 地域・保護者との連携について

<学校からの資料提供>

- 8 回収率について
- 9 A、D評価のみに着目しての分析

1、アンケート実施日

- ① 児童 令和元年11月22日
- ② 保護者 令和元年11月13日から26日
- ③ 地域 令和元年11月19日から29日

2、実施・回収の方法

- ① 児童 教室で実施・回収
- ② 保護者 各家庭で実施・特製封筒に入れ、担任を通じ回収
- ③ 地域 学校協議会委員の方々へ郵送し、郵送で回収

各項目の<調査結果からの分析>の中で学校自己評価報告を含ませてもらいました。

事務局 副校長 小俣弘子

1 重点 教育目標「豊かな心をもった子」〈德育〉思いやりのある優しい子ども

に関連した項目【あいさつ・人権】

保護者

(1) 私の子どもは、よくあいさつをしている。	元	27	56	83	14	2	1
	30	28	54	82	15	2	1
	29	27	53	80	15	2	2
(2) 私も子どもたちに、よくあいさつをしている。	元	34	60	94	5	1	1
	30	33	60	93	6	0	1
	29	31	59	90	8	1	1
(3) 私の子どもは、自分と友達を大切にしている。	元	45	52	97	1	0	2
	30	42	54	96	3	0	1
	29	43	53	96	2	1	2

児童

(1) わたしは、学校の中で、先生や主事さんなどにすすんであいさつをしている。★☆	元	55	34	89	7	1	3
	30	51	36	87	8	2	2
	29	56	32	88	7	4	1
(2) わたしは、学校の外で、知っている人にすすんであいさつをしている。★★	元	55	30	85	11	2	2
	30	54	29	83	11	4	3
	29	52	33	85	10	3	1
(3) わたしは、自分と友達を大切にしている。★★	元	72	24	96	2	0	2
	30	71	23	94	2	0	2
	29	61	30	91	5	1	1

地域

(1) 子どもたちは、よくあいさつをしている。	元	31	50	81	12	4	4
	30	17	52	69	17	4	9
	29	21	46	67	26	3	5
(2) 私も子どもたちに、よくあいさつをしている。	元	42	39	81	19	0	0
	30	22	57	79	9	4	9
	29	31	56	87	10	0	3

＜学校関係者評価委員による提言＞

成果として、教育目標「豊かな心をもった子」の基本行動として「気持ちのこもったあいさつを行う」ことが全校朝会のあいさつ宣言や登校時のあいさつ運動等をとおして子供たちに浸透していること、そして実践に結びついていること、挨拶することが習慣化されていることがいえる。また、保護者や地域の方から高い評価をいただいたということから学校以外の場所でも実践できていることがうかがえる。

挨拶するときにきちんと止まって丁寧にお辞儀をする子がいて素晴らしい態度だと思う。今後も継続し、多くの子にこの姿勢が広まってほしい。

学校で出会ったときには子供たちからすすんで挨拶するが、地域の中では恥ずかしそうにして挨拶する子が少ない。また、挨拶だけでなく返事もしっかりできるようになってほしい。

教職員がすすんで挨拶をする様子が多くみられる。また、電話等の受け応えもよく、教職員のそのような日頃からの姿勢がよいと感じている。今後も継続してほしい。

＜調査結果からの分析＞

学校自己評価報告

○保護者、児童、地域とも児童が良く挨拶ができていると評価している。

【成果】

- ・「自分と友達を大切にしている」点でも、評価が上がっていることから、児童にこの教育目標、この目標に向けた基本行動が児童に浸透していると考える。
- ・「特別の教科 道徳」の研究をすすめ、児童の豊かな心の育成に取り組んできたことも成果といえる。

【更なる改善に向けて】

- ・C、Dを選んだ児童の改善に向けて教員が率先して挨拶を行い、「自分が大切にされている」という意識をもたせ、挨拶することの良さを実感させていく。
- ・全校朝会でのあいさつ宣言の継続・充実
- ・朝の教員による校庭、玄関等での挨拶、見守りの充実

2 重点 教育目標「豊かな心をもった子」〈德育〉思いやりのある優しい子ども

に関連した項目 【生活指導面】

保護者

(1) 本校では、社会のルールを守ることについて子どもたちに指導が行われている。	元	39	55	94	3	1	3
	30	35	57	92	4	1	3
	29	30	60	90	5	1	4
(2) 本校では、子どもたちに問題となる行動が少ない。	元	21	58	79	8	3	9
	30	17	57	74	13	2	11
	29	14	50	64	16	6	14
(3) 本校の教員には、子どものことを相談しやすい。	元	33	50	83	9	4	4
	30	28	54	82	13	2	3
	29	24	55	79	13	3	5

児童

(1) わたしは、きまりを守って行動している。★☆	元	43	43	86	10	2	2
	30	38	49	87	9	1	3
	29	31	52	83	11	4	2
(2) だれかが学校のきまりを守らないときなど、先生は、注意をしている。★☆	元	69	23	92	3	2	3
	30	65	27	92	5	1	2
	29	68	25	93	4	2	2
(3) 先生に注意されたことは、納得できる。	元	61	30	91	6	1	2
	30	57	32	89	6	2	3
	29	61	25	86	8	4	2

地域

(1) 通学している子どもたちは、社会のルールを守っている。	元	19	69	88	4	0	8
	30	17	65	82	13	0	4
	29	10	79	89	3	0	8
(2) 通学している子どもたちは、問題となる行動が少ない。	元	23	65	88	0	0	12
	30	17	65	82	9	0	9
	29	10	64	74	13	0	13
(3) 学校の教員は、子どもたちのよき手本となっている。	元	31	46	77	12	0	12
	30	13	48	61	13	4	22
	29	28	49	77	10	0	13

＜調査結果からの分析＞

学校自己評価報告

○生活指導に関する評価は保護者・児童・地域とも良好といえる。

【成果】

教員が、ルール（花の子スタンダード2019）や問題行動への一貫した指導等適切に行われているといえる。

○2(2)(保・地) 問題となる行動に対する評価が上がっていることについて

【成果】

- 朝会等における校長の講話 その方針に沿った教員の一貫した指導（具体的な場面を提示し褒める。指導する。目指すことを明確にする。生活アンケートの記述に即対応する。）→問題行動の未然防止につながっている。

【更なる改善に向けて】

- 「教員のいないところには子供はない 子供がいるところには教員がいる」の徹底により、安全面だけでなく、児童への安心感をもたせ、問題行動の未然防止につなげていく。
- 毎月の生活アンケートにおいての聞き取り、即対応を行っていく。

＜学校関係者評価委員による提言＞

問題行動に関する評価が年々高くなっていることがすばらしい。教職員の頑張り、組織的な指導が成果として表れていると思う。

問題行動についての評価について低学年に比べると、高学年の方が評価が低くなっていることや、学級によって評価に差がある。（各学級担任による調査結果より）

子供たちは、問題行動があると先生がどのように指導したかよく見ている。軽く許してはいけないと思う。問題行動に対して教員で一貫した指導を行うようにしてほしい。

今後も教員一人一人の対応力の向上を目指すことと同時に、問題行動等については、担任一人だけに任せず、学年、学校と組織的に対応することを引き続き行い、改善に向けて取り組んでいただきたい。

3 教育目標 よく考える子〈知育〉ものごとをよく考え、向上しようとする子ども に関連した項目

【学習指導】

保護者

(1) 本校では、子どもたちにとつてわかりやすい授業が行われている。	元	27	62	89	6	1	6
	30	24	65	89	5	0	5
	29	24	62	86	7	1	6
(2) 通知表で評価されたことは、納得できる。	元	30	57	87	8	2	2
	30	29	59	88	9	1	2
	29	24	59	83	11	2	3
(3) 本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついていく。	元	23	61	84	10	1	4
	30	22	63	85	10	1	5
	29	21	60	81	10	2	7
(4) 本校は、時間を守って授業が行われている。	元	38	55	93	3	1	4
	30	35	55	90	5	1	4
	29	33	56	89	4	2	5

児童

(1) 授業は、楽しい。★★	元	59	31	90	6	1	2
	30	55	35	90	6	2	2
	29	50	37	87	8	3	2
(2) 授業の内容は、よくわかる。 ★★	元	57	34	91	6	1	3
	30	54	37	91	7	1	1
	29	55	39	94	4	2	0
(3) 先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。 ★★	元	62	26	88	5	1	6
	30	51	31	82	8	3	6
	29	54	32	86	6	2	5
(4) 先生は、いつも時間を守って授業をしている。★★	元	60	28	88	7	2	3
	30	38	42	80	12	3	4
	29	43	40	83	9	4	3

＜調査結果からの分析＞

学校自己評価報告

○学習指導について児童も保護者も評価から良好といえる。

【成果】

授業の工夫、時間を探る面での評価が向上していることで、教員の努力や学習規律が表れている。

【更なる改善に向けて】

学力向上への対策として

- ・教員の授業力アップ…

研修・研究体制の充実

日常からのOJTの習慣化

ペアを組んでの育成体制の確立

- ・「誰一人置き去りにしない教育」として、少人数指導（補充的・発展的学習）、花の子クラブ、取り出し授業、T・T、すまいるルームの活用等、児童の実態に即した指導・支援を充実させる。

＜学校関係者評価委員による提言＞

学習指導について児童、保護者の方から共に高い評価になっている。

今後の課題として学力向上への対策を明確にし、一人一人の力を伸ばしていくほしい。

4年生頃から、塾に行き始める児童も多いが、一人一人の実態をよく把握し、補充的な学習・発展的な学習等適した学習の提供を考え、学力を伸ばしていく必要がある。そのニーズに応える教員の指導力・対応力が求められる。

また、教員間で学び合う環境を充実させ、授業力向上を図っていただきたい。

4 教育目標 健康な子〈体育〉体を丈夫にし、明るい心をもつ子ども に関する項目

保護者

(4) 本校では、健康の増進や体力向上に取り組んでいる。	元	30	55	85	8	1	6
	30	28	56	84	11	1	4
	29	26	58	84	11	1	4

保護者

(4) 私の子どもは、よく外遊びや運動をしている。	元	33	42	75	20	5	1
	30	35	41	76	18	5	1
	29	32	41	73	22	4	1
(5) 私は、子どもに「早寝、早起き、朝ご飯」を努めさせている。	元	44	47	91	7	1	1
	30	43	47	90	9	1	0
	29	41	46	87	10	2	0

児童

(4) わたしは、外で元気よく遊んでいる。★★	元	67	20	87	8	3	1
	30	63	22	85	9	4	1
	29	60	24	84	10	4	1
(5) わたしは、「早寝、早起き、朝ご飯」ができている。★★	元	42	32	74	15	7	3
	30	40	33	73	17	7	3
	29	38	32	70	18	8	2

＜学校関係者評価委員による提言＞

- ・外遊びについては、学校では休み時間遊んでいるが、家庭では家の中で遊んだり、習い事等で遊ぶ時間がなかったりすることがある。このことから、学校での外遊びの機会を大切にしていく必要がある。
- ・子供たちの中には学校においても、外より教室や図書室での遊びを好む児童もいることから、外遊びができるチャンスを作っていくほしい。(クラス遊びや花の子体力づくり等)
- ・外より、中で遊びたい子の気持ちも分かる。図書室等の利用があつてよいと思う。
- ・体育の時間に体育着を忘れて 45 分間見学をしている児童を見かける。できる運動は参加させる等運動する機会を大切にしていく必要がある。

＜調査結果からの分析＞

学校自己評価報告

【成果】

- ・世田谷区教育ビジョン「心と体の元気アップ『世田谷3快プログラム～快眠・快食・快運動』」の下、学校・家庭・地域が協力・連携を図り、健康や食育の指導をとおして、健康やよりよい食についての知識や食習慣を身に付けさせることを推進してきている。この一環として、学校保健委員会で本校の栄養士が、食の重要性を講演し、保護者の方へ伝達できたことは成果である。

【課題】

- ・外遊びについて
児童の評価は高いが、保護者の評価は低い。学校では遊んでいるが、家庭では家の中で遊んだり、遊ぶ時間がなかったりすることがあると考えられる。自ら外出して遊びたくなる働きかけが必要である。クラス遊びや遊びの提供等

【更なる改善に向けて】

- ・定期的に行っている「花の子体力づくり」の充実
- ・保健や食育の授業の実践
- ・早寝、早起きについては3快プログラムの一環で、充実した取り組みを開拓していく。

5 学校運営について

保護者

(1) 学校の重点目標が明確である。	元	38	51	89	5	1	5
	30	35	54	89	6	0	5
	29	31	52	83	8	1	8
(2) 校長は、リーダーシップを發揮している。	元	57	36	93	3	1	4
	30	55	38	93	3	0	4
	29	55	36	91	3	1	5
(3) 校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	元	48	44	92	2	1	5
	30	46	48	94	3	0	3
	29	43	46	89	4	0	6

児童

(1) 每日の学校生活が楽しい。 ★☆	元	68	23	91	6	2	2
	30	61	27	88	7	2	2
	29	57	30	87	8	4	1
(2) 桜丘小学校が好きである。 ★☆	元	70	22	92	4	2	2
	30	67	24	91	5	1	3
	29	61	27	88	6	3	2

地域

(1) 学校の重点目標が明確である。	元	58	35	93	8	0	0
	30	48	48	96	0	0	4
	29	54	38	92	5	0	3
(2) 校長はリーダーシップを發揮している。	元	62	38	100	0	0	0
	30	74	22	96	0	0	4
	29	62	33	95	3	0	3

<調査結果からの分析>

学校自己評価報告

【成果】

学校の重点目標、校長のリーダーシップに対する評価は保護者、児童、地域とも良好といえる。

- 校長による全体保護者会での資料を提示しながらの重点目標の説明、災害時における対応等は、保護者にとって納得できる内容になつていて、学校への信頼に結びついていると考える。

- 児童の満足度が高い。児童が学校で大切にされているということや、児童にとって不満に思うこと（学習面、友人関係、担任との関係等）の解消がされているということがいえる。

- 児童の育成に向けた校長のリーダーシップのもと教職員、保護者、地域が信頼関係で結びついていることが考えられる。

<学校関係者評価委員による提言>

- 校長先生が来て4年間改善されたことが多く、リーダーシップで高く評価されている。
- 校長のリーダーシップのもと学校経営方針の実現に向けて教職員は取り組んでいる。
- 校長のリーダーシップの評価は、クラスによって差がある。先ほどの問題行動での評価が高いクラスは、校長のリーダーシップの評価も高い結果となっている。したがって、保護者にとって、お子さんの学級の様子によって学校全体の評価につながっていることが分かる。このことから教員一人一人の指導力・対応力の向上を目指していくと同時に教職員同士で学び合い高め合うことで教職員全体の力を向上させる必要がある。

6 教職員について

保護者

(1) 本校の教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	元	44	49	93	2	1	4
	30	43	49	92	4	0	4
	29	39	52	91	4	1	5
(2) 本校の教職員は、社会人としてのマナーを身に付けている。	元	37	52	89	5	1	4
	30	35	53	88	6	1	5
	29	33	55	88	5	1	5

児童

(1) 先生は、いつも熱心に教えている。	元	58	32	90	4	1	5
	30	54	35	89	5	1	5
	29	55	34	89	6	2	3
(2) 先生は、だれに対しても公平である。	元	53	29	82	8	4	5
	30	44	33	77	12	4	7
	29	46	32	78	13	8	3
(3) 先生は、よくわたしの話を聞いてくれる。★★	元	59	28	87	5	2	6
	30	54	31	85	7	2	6
	29	45	36	81	9	3	5

地域

(4) 本校の教職員は、社会人としてのマナーを身に付けている。	元	31	42	73	12	0	15
	30	17	43	60	17	0	22
	29	31	49	80	10	0	10

<調査結果からの分析>

学校自己評価報告

【成果】

- 教職員に対する評価は保護者、児童とも良好といえる。地域でも向上し、更なる改善が見られた。
- 各教員は、自己申告面談時に明確な目標設定を行い、それに向けて取り組んだ成果であると考えられる。

【課題】

教職員の服務の徹底

教職員のマナーについて（あいさつ 電話対応 連絡帳 面談 保護者会等）のミニ研修の実施・・・主任教諭等に担当させる。

<学校関係者評価委員による提言>

- 教職員への評価は概ね向上したといえる。
- 教員の一人一人が具体的な目標設定を行うことで、実現に向けて取り組んだと考える。
- マナーの向上については、本校で学んだことを他校に行ってもできるようしっかり身に付けていってもらいたい。

7 地域・保護者との連携について

保護者

(1) 本校は、地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	元	22	57	79	9	1	11
	30	23	57	80	8	0	11
	29	22	57	79	9	1	11

(7) 私は、ボランティアとして、学校の教育活動に協力したい。	元	19	59	78	14	3	5
	30	18	55	73	17	4	6
	29	20	54	74	17	5	5

児童

(8) わたしは、地域の方々との交流学習が楽しい。	元	40	39	79	8	5	8
	30	45	37	82	8	3	7
	29	58	24	82	10	4	5

地域

(1) 地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	元	31	46	77	12	4	8
	30	26	52	78	13	0	9
	29	23	54	77	13	0	10

＜学校関係者評価委員による提言＞

- ・地域の人材を生かした授業を行っているのにもかかわらず評価が高くない。保護者との授業のねらいの共有や、地域の方が授業に入ると効果的であることのアピールが必要である。
- ・地域や外部の方との授業が児童にとって有意義になるよう教員の授業の工夫が必要である。

＜調査結果からの分析＞

学校自己評価報告

【改善に向けて】

- ・地域や保護者の方との外部人材活用授業を展開する場合、まずは授業のねらいを授業に協力いただける地域や保護者の方と共に有し、同じ方向を向いて指導に当たることが重要である。そのためには授業にいらしてくださる方と学年の担当が授業のねらい等について共通理解できる打ち合わせを行うことを教員に確認する。授業では子供たちにとって「地域の方が教えてくれて詳しいことが分かった。」「地域の方が方法を教えてくれたので学習が楽しくなった」等、深い学びにつながるよう授業の展開を教員が工夫する必要がある。また、人材活用授業が継続・発展できるように学年で記録を残し、反省を行い、来年度の担任に申し送りをするようにした。

〈学校からの資料提供〉

8 アンケートの回収率について

回収率は、886名で学校全体の99%（封筒のみ含む）

〈回収率からの分析〉

- ・保護者様からの学校教育への関心の高さが回収率に表れている。このことに感謝し、応えられるよう教職員一丸となって教育活動に取り組むことが求められている。
- ・毎年継続して、アンケート結果を保護者や地域に迅速に明確に返し、改善策を伝えている。保護者にとってアンケートが生かされている実感をもってもらっていると考える。今後も、本アンケートだけに限らず、行事等のアンケートのご意見等を真摯に受け止め、対応し学校全体の改善に向かうようにしていく。

9 A評価、D評価のみに着目して（保護者アンケートより）

〈項目全体の中でA評価（とても思う）が高かった項目〉

- ① A評価 71% 子供たちは学校行事を楽しみにしている。
- ② A評価 57% 校長は、リーダーシップを発揮している・
- ③ A評価 52% 私は、子供に安全に気を付けて生活させている。
- ④ A評価 49% 本校の子供たちは、学校生活が楽しいと感じている。
- ④ A評価 49% 本校では、学校全体に活気がある。

〈項目全体の中でD評価（思わない）が高かった項目〉

- ① D評価 5% 私の子供は、良く外遊びや運動をしている。
- ② D評価 4% 本校の教員には、子供のことを相談しやすい。
- ② D評価 4% 「さくらの学び舎」の桜丘中学校について、十分な情報提供がされている。

〈A評価、D評価のみに着目しての分析〉

- ・A評価の結果から、学校全体への満足度が高いと考える。今後も校長の経営方針のもと、充実した学習指導・生活指導・行事への取組等行っていく。教職員は、現時点で満足することなく改善提案を常に考え、実践を重ね向上していく意識改革を行う。
- ・D評価の結果から、それぞれの項目に関して改善点を明らかにする。特に「本校の教員には、子供のことを相談しやすい」については、担任によって評価の差があるので、教員の保護者対応、日頃からの児童対応の力の向上に学年団を中心向上に努めていく。

「さくらの学び舎」に関しては、今後更に連携・協力体制を高めていき、児童にとって有意義な交流活動等展開できるよう取り組んでいく。